



特別
1.5
1411



門 46
號 1411
卷

25.1.7
購
911



○はらうらの女 たらうの尼

栄花物語布引巻 井之何なるいさきあやありをらう
の女もたらう女まよし うれしきまはすれとまほせ
られれたん

菰波問答 たらうの尼とて七八十ある連奇師
もたらうき

按をらうの梅陵の義あり病を療すを今も取
らうのよのちのうらきやいさしめ女はしとおいさうら
まはきものいんがのちのきめさるわきとらうなり
らうの女もあらうたらう 栄花のたらうの女を

○よひけりいふせり

古今集卷二十 甲斐奇 甲斐と云はれしとみしけれ
なりよひけりいふせり

梅妙奇の四のふりよはれりいふせりいふせりいふせり
甲のふりいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり
すゝらんいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり
いふせりいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり
顕眼いふせりいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり
そいふせりいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり
のいふせりいふせりいふせりいふせりいふせりいふせり

せらうしあつと今もいふほめ伝ちたることか
いふとくうれし日本風俗奇譜甲斐とけ壽とあもく
与古保利太天流とあると又神中抄一喜一四郡の
説もと申すもちと義いふこととらあつと神中抄には
了あうな流よいらつと申すこととらあつと神中抄には
こつとつと申すこととらあつと申すこととらあつと
たもいふこととらあつと申すこととらあつと
どうア郡の事とあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
あつと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと

よこたわつと申すこととらあつと申すこととらあつと
あつと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
抄の顛うつとらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
たてな後と申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
類の崩の字の訓と申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
くつと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと

かあけつと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
万葉巻五憶良の長哥と可多知久都保里と何れか
の刻つと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと
類多のい都久保里と活字の字つと申すこととらあつと申すこととらあつと

○ 悔とを鏡つと申すこととらあつと申すこととらあつと申すこととらあつと

くしころと中居氏は何よりけしよあめれあひひ
暗合せると博識のふくふれあひのきつ統あふく
んあふらんころと書ころと

○ ちまのきい

海上くや風のこころの端がくくく
ちまのきいころと心まきハ
あふらん風と

林葉

ちまのきいころと心まきハ

山家集

ちまのきいころと心まきハ

ちまのきいころと心まきハ

新古今春上 重之

梅のえよ 柳のきき 花のよき 春のをよ
続古今春下 重之

と手はねる 木のをよき ちやねも かの後のきき

朗詠日 六帖 重之集 柳のうらうら

新撰六帖 松虫 元俊

夕のいひつら くのや ちたて ぼねの 松虫の 輝
梅のよき 花のよき 柳のよき 春のよき
又 春のよき 花のよき 柳のよき 春のよき
又 春のよき 花のよき 柳のよき 春のよき
又 春のよき 花のよき 柳のよき 春のよき

何れも 虫のよき 春のよき

○獨樂コソツブリ

和名抄雜藝具云

獨樂

辨色立成云獨樂

和名古末
都玖利

有孔者也

略本和名抄雜藝具云

獨樂

辨色立成云獨樂

都无求里此間
云古万豆久利

有孔者也

按すゝゝ獨樂は今兎戲に用ゐるこまの形のなげり

りのこまの形はコソツブリをコソツブリの誤りツブリとは獨

樂の形の圓なるより名なり原を不とあるを久と誤り

又玖と書くはなんコソツブリなるを意通せず其

コソツブリカゝる陰也

○はび つみ くらび うみつび

北國方言イソヒチベ

本州和名云甲羸子 類似辛螺而有角蓋 蓋上甲錯似鮫魚皮 栄螺子 胡均 板螺

性味相似 一名蚌 呼耳及似蛤 而圖出雀島 和名都比

同云田中螺汁 雀島音 浴果及 一名螭螺 有棲着也 出拾遺 和名多都比

新撰字鏡云蚌 蚌同大倉及宇 并支又豆比

同云蝸 牛俱又 津比

同云蝻 姑倉及羸 大者海豆比

続詞花集戲咲部云 せんねのよきつみやめしうらな何

アキムラキ

よみく

よきらみふれれかろい せうくつろんせれた

山家集下云 びいー さまの ちんまうて 四国の じん
じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん
じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん
じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん
あつちん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん じん

○おろし 侵

此依ま古言梯よハカスの依ま 萬葉集ハ侵の
字をカの依ま用ひ 巻末ハカスの
詞をカのみふ 温ハカスハ 温ハカスハ 温ハカスハ
あゝん 温ハカスの音ハ 日本紀竟宴歌ハカスの
用ハカスハカスハカスハ 又本居氏の大板後梅ハ
おろし 温ハカスハカスハカスハ 温ハカスハカスハ
ハカスハカスハカスハ 温ハカスハカスハカスハ
カスハカスハカスハ 温ハカスハカスハカスハ
を略ハカスハカスハカスハ 温ハカスハカスハカスハ

人ふちふき今考ふに和の術まなうと明鏡あり

拾遺集長哥 東三条大政大臣

おちろる野のつちすみれつみおちあつたふ

源氏若菜下 柏木

とやとそつみおちあつたふ草花のちのち

同 幻 源氏

ちのち思ひすくせ帯ねもあつたつちやつみおちあ

草庵集長哥 又入新続古今集

おちろる野のつちすみれつみおちあつたふ

おちろる摘置ツキオケスの罪犯ツキオケスとつちすみれつみおちあ

すや草庵集ハハ後のものも侍者の禮なまし引き

ものたつね拾遺の長哥よりとよみおちあつたふ

又後撰集秋中 ねね 御時ヒトトキ平ヒラの女郎花合ウツク

よみくしらす

秋の野の露おちろるをみれつちすみれつちす

奥用集ハハ結句とつちすみれつちす

同 秋下 菊の花をねねと人のつちすみれつちす

よみくしらす

つちすみれつちすおちろる花をねねと人のつちす

は二首とも置オケル、よ犯オケル、よつちすみれつちす

露よ自由よさきとらふんをたえらりさればこれ犯すの
それの證とすし—オカとらふの体語とすオカスオカシ
オカセルオカサンとはさうらうらう オカレ、とす 轉用せる語
なり—

○ついでさういさう ついでさう 一七日 一六月 一二月 一三日
附記 十日 一八日 一廿日

たうさうさうさう七日

日本靈異記卷下 廿五条 以延暦十五年三月朔七日 同卷下

廿八条 延暦六年丁卯秋九月朔四日 此れらと春秋なりとみゆ 同

体よかうそ手朔セリはけいさうなわく朔四日 栄花物語 んそそめ友けい

さう六りのよのわらうよそ 二条筋よりついでさう 同 後悔将つ

さう六りのわのわののよのわの 同 若枝ついでさう 二日さうの

若とて同 口老さうさうついでさうわのわのさうわの 同 華月

ついでさう三四日の解とて同 衣の珠ついでさう四日ついでさう

△
精進日記下
ついでさう三日の
けいさうむすの
ついでさうさう
口
ついでさう八日の
むすのむすの
むすのむすの

同 同巻 ついでにやうり

栄花物語

まゝにやうり

是即善滋為政行
幸高陽院應製

和歌序
文也

長明無名抄上

基俊

なつのおきとまうり

なごん

俊成

君やとまうり

源順家集庚申夜奉和歌小序

のえきりよあはれり

○ づらちうり

は月古今集あやふんえん 伊路たふみ
あつちありむ百はあえんえん 又下唐は後やうり
なまふちちうりも 一廿のいも
づらハ づきと 解材抄よりの ちあひも 月させん
えんく づきと 月の定まはると づら
らふちあやふんえん ちあひも 月させん
はくも づきと 月の定まはると づら
づらむ ちうりのあつちと づら ちあひも 月させん
づらむ ちうりのあつちと づら ちあひも 月させん

こゝへくのくにづうしんひく音便くくうんよりの約
 まるいまの候なるよしおいもくもりつまる河ちを今ま
 らむとらよのみりあいなも侘言よ海やうんよとまきと海や
 りよのみりあいなもくもりつまる河ちを今ま

花蓋七日

花の蓋なるはばとを七日まきとありあひ中、海おほく
 ひあくるこゝ今の子の人へはもようねん。

平家物語巻一我君のよひく、柁は志んありののを柁町
 の中納言とももくこゝすねらんすあもる人、書
 ぶよのいなるいつ町は柁とつ急なるべし肉な屋
 て、何よりいばある年のこゝもあんな人、柁町とち
 ける、柁はいつて七日、ちるをたのうとて、天照大御
 様のゆきされりれい、廿三、七、日まで、各跡あるりき。

哥、よ、あ、い。

月詣集卷二 様々

藤原伊細

ししせいららそ梅のほひつたれさうまのせりたうせい

山家集上

あしやるとのゆの雲のふたふちらぬせりほけい思

山家集上 初花
天河のいほも
あいらるるの
七のいほも
あ

又撰集抄卷四十七条 徳本卷六 三十三条 七日のきくる花のなま

同書卷七四条 徳本卷七 四十七条 清殿の上のさくららのせり

わういとつぐをささのうらうらとけしき 同書卷八

六条 活本无 此条 花せりとうきくるま 枝はゆもあふし

ささのよりふしきとたれは

万葉集卷九 廿丁

漢按三
吾八君
誤十
此

哥八
難波
オクル
長哥
三三
ヨメ
ナリ

吾去者 ナヌカハスキニ 龍田彦 ユメコノハナラカセニ 勤此花 ナリナメタレクサマクシラクヒユクキミカ 風爾莫落

とまよりのちよ思ひあやまうや七日よこのきくるこころいぢせ

なりそむし此哥ハ春三月諸卿大夫等下難波時歌二首

とまよふらうみそ長歌二首反哥二首あるその中の一首の

反哥 シヤケラ の長哥 シニラクハ 須臾者落莫乱草枕 ナリナメタレクサマクシラクヒユクキミカ 及還来 カヘリクマエニ

及還来 カヘリクマエニ もありそ ナヌカハスキニ 七日 ナヌカハスキニ 不過 ナヌカハスキニ といふるあり

同書同卷詠水江浦島子歌 ナヌカハスキニ 及七月家 ナヌカハスキニ 尔毛木未而 モコダテ

あらし七日 ナヌカハスキニ は ナヌカハスキニ ねる ナヌカハスキニ の ナヌカハスキニ のみ ナヌカハスキニ け ナヌカハスキニ 外 ナヌカハスキニ 解 ナヌカハスキニ

く万葉集中 ナヌカハスキニ 七月 ナヌカハスキニ と ナヌカハスキニ 日 ナヌカハスキニ ね ナヌカハスキニ と ナヌカハスキニ の ナヌカハスキニ き ナヌカハスキニ り ナヌカハスキニ て ナヌカハスキニ け ナヌカハスキニ あり ナヌカハスキニ 付 ナヌカハスキニ

あつと申はり万葉集かゝの古意古語をむいん
ていしりすあなむねんしりやんあゝりしあなよそ
のさよもまきまゝ志らでいひおせしとと海をみ
そはなまりや中つ書あうんといりそ尋ねんし思
ひらふかゝの海はあやまるとつてし今しりや
いあはらうらなむむしきあはらねいし思ふ
んむむらんらんあつと申はり

あめの地しやあめの地しや

永久四年百首七夕後朝俊頼

いしりんあめの地しやあやぎりよらあみく又やと

夫木同

萬代集秋上ハ初句たなをなはと

清輔家集 月

いさゝあめの地しやあはらん社のまゝとあめ

萬代集神祇

清輔

非代りあめの地しやあまきまみたるを家哉

按此三首皆天印といふ意よりなりてよめるは清輔集
なり近頃の詩人の月印池をいふころは地れし

この河川例の萬葉集と訓誤の事、取用したる方、
 萬葉卷十 廿六丁 ミサカタノアノミルシトミナセカハ 久方天印等水無瀬河隔而置之神世之
 恨あり此天印とあり堀河院時代よりあめのかきと
 みてありなりとんと仙覺律師あめのかきの事
 とられたる方、ミサカタノアノミルシトミナセカハ 移しあまの志
 むとれ又同卷長哥より久方乃天驗常定大王の事あり
 て天印もあまの志とありあめのかきの事あり
 あめのかきの事ありあめのかきの事ありあめのかきの事あり
 たらぬべしなり又あめのかきの事ありあめのかきの事あり
 源貞世の鹿苑院准后義満公嚴嶋請記より

印本定ラ
 星三ツヤ
 コレリ訓
 モアシハ

五日雨風をけりてあまの地よりあめのかきの事あり
 とありあめのかきの事ありあめのかきの事ありあめのかきの事あり
 の

苳子

主水式云。正月十五日供御七種粥料。中宮亦同。米一斗五升。粟。

黍子。稗子。苳子。胡麻子。小豆。各五升。

民部式下交易雜物條云。河内國。大麥三石。小麥廿五石。苳子五斗。薦二千五百枚。

攝津國。云々。苳子九斗。云々。

和名抄。麻類第百二十曰。苳子。本朝式云。苳子。苳音皇。和名美乃。今按訓

釋出所未詳。

新撰字鏡。草部五十九云。董。多動反。正也。田在美乃。又云。莠。喻受反。救三反。上。醜也。田乃弥

乃。

按苳子いづれものこもるる。いづれかすかひものす。

こと書そ。後の考よりれんそ。升もそらう。又
七種の穀類すま。用。又和名抄麻類よりりれら作
な。そち。その書。僕の書。齊民要術
よ。草菜。似蒜生水邊。とんえ。れ。後。考。全。後。
田畦。そ。そ。後。田。そ。そ。あ。き。ら。む。き。こ。が
。

○ しま はまら はら はまのそり はまのそり

為忠百首 為忠

ついでにのちのけりたかむる部

顯季集

ついでにのちのけりたかむる部

山家集上

ついでにのちのけりたかむる部

同下

あやうにのちのけりたかむる部

後葉集

大仲長公長朝臣

るんぬるに雲うねしりた川はきみのんかいついよる

金葉集十一回弓きりのるをしくあう

壬二集 田

この文はきみの内蔵らうん 妻や田よりみあつらん
梅すもよるきさうらりき路をりきい今田舎をほけ
らよけりいなら地名武元川越なるうり即
ちましこたれハこそ金葉よきのうきよあつと
後葉よははきみのうきよあつとれ又躰をるの奇
よるいししー 山崖の乃とりし

○あきみのしーらあきみのみ本

千載恋三 前齋院新肥前

あまやたけのきものしりたかきうりけをきりん

うね 安嘉門院四条

よすられよあきみのうりらのはりきあきなるいしれ

宝治二年百首 信實

うりあはらほれよ本やきききされまのりか

新撰六帖本 衣笠内大臣

松山のあきみの極やけいはいしりてくしなまきしりか

同 まのき、 同

あつるやまのくまのりや真を任あき整ふりかえは

続後拾遺恋一 宗尊親王

ふいすくみろ名たのりるあすめにあきむの柱んはか
梅すくもあきまじりしころり難布をりつあつ越
後人のころこ越きくみくつろみくしをころあ
材本なりあきむいそはあきまじり物めやうあちじ
なつろりあきまのき思いこも考はじ

〇志のりあの神 志のりあの神

志のりあの神とに喪服をうり上下通用して用あきしん又えり
襟深なるの形を推して深しとやそれとも黒色か下八雲

追伸
雲御抄
具名部
また
志のりあ
の神
四位
あるか
或抄
はの誤
と伝

御抄は志のりあの神神とあき喪服がれハ帯のりも志のり
の神とあきまじりまきまじりしを志のりも或説は志のり
ハの神ハ四位の友人の喪服をうり後の奇は推を志のりの
にあきまじりて四位は志のりもまじりしあきまじりてのあ
あきなり後之を志のりあきまじりしとあきまじりて後の
考よりあきま 後拾遺恋傷 一巻院御製
みやまの系くやうつる志のりあの神 は奇ハ枕冊まじり

此等圓融院の法を承りて...
又榮花物語有安村上帝からしむりし...
下の人からすのやうなりし...
おそれたりし... 又千載雜中十月...
又の年の春傍置し...
又月詣集より... 又千載哀傷大炊御門の右大臣が
此傳りて後七月七日母の三位の...
此の樵大納言實家...
此の病をりし... 三位 志の...
此の病をりし...

此の病をりし... 又秘義抄...
深養又...
此の病をりし... 因香朝臣...
此の病をりし... 此の病をりし...
又推鈍の... 此の病をりし...
今昔物語十八... 此の病をりし...

てねきいんおきし 衣と推鈍ノ衣とくうりし

○たのほいどののうの ながしのね 年長彦の楢

永久四年百首 **哇** 七夜 俊頼朝臣

君ふけいかなはこのるけうしういふとまあえ

按し〜〜 此のいふのうも〜〜 今〜〜 けうしう きしめやハ

林拾葉集云甲斐国七彦より小豆の末彦

粥の産所の七夜こもちわるく七彦より小豆孫彦の

よ中彦のうら〜〜 せいひのわもせう〜〜 秘言のあ〜〜

坐拾葉集 河のば〜〜 のまの指を〜〜 今年〜〜

よ〜〜 申斐国より駿河〜〜 けうしう きしめやハ

〜〜 の布とら〜〜 ハ代郡と七日市場と小村の〜〜

よ一七彦のついでにむねをたはしむるやまき文書に
七彦のむねをいふやまき文書にむねをいふやまき文書に
いふやまき文書にむねをいふやまき文書に
あり七日市場のむねをいふやまき文書に
むねをいふやまき文書にむねをいふやまき文書に
場三日市場二日市場のむねをいふやまき文書に
国をいふやまき文書にむねをいふやまき文書に
よ七彦のむねをいふやまき文書に 夫木集卷廿六賀部よ永
久四年百首をいふやまき文書に 此哥の二句なるはむねをいふやまき文書
長彦のむねをいふやまき文書に 夫木集賀部源俊兼

かきしむるむねをいふやまき文書に 君の代を長田につくる長彦の禰
又夫木集里匡房とくむねの里なるはむねをいふやまき文書に 秋の四八年長彦の禰
とむねをいふやまき文書に 又夫木集村藤原正家とくむねをいふやまき文書に
むねをいふやまき文書に 村の長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に
代をいふやまき文書に 長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に
長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に 古事記にむねをいふやまき文書に 大
年神御年神とくむねをいふやまき文書に 四八年のむねをいふやまき文書に 神
むねをいふやまき文書に 長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に 神
むねをいふやまき文書に 長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に 此哥に
長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に 君の代を長田につくる長彦の禰
長彦の禰清輔集つむねをいふやまき文書に 下句

いふことあるはあはれなることなりし長きことありし
又三句七句ありしもの七彦の御歌なりしや
あはれなることありしもの七彦の御歌なりしや
何れもあはれなることありしもの七彦の御歌なりしや
七夜のいふ奇なりしもの七彦の御歌なりしや
年百首のくまの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや

いふことありし

源氏物語須磨 人らびいふけりしもの七彦の御歌なりしや
むいなるもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
あはれなるもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
月若菜 此のいふ御歌をのみかたんとしとあはれなるもの
くまの御歌なりしもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
けりしもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
此の日記 ちかき御歌もあはれなるもの七彦の御歌なりしや
又なとついでしもの七彦の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや
源氏物語 峯月 院の御歌の御歌なりしもの七彦の御歌なりしや

た〜か〜い〜も〜ち〜て〜い〜又〜い〜い〜る〜
而性もあ〜て〜口〜さ〜れ〜下衆〜き〜い〜も〜性用
ま〜い〜ち〜あ〜し〜一〜性用と性用〜と〜性用〜
用い〜て〜守〜と〜物性用〜の〜つ〜〇〜一〜例〜あ〜か〜い〜と
ふの性用を〜う〜人〜と〜い〜か〜予〜性新〜と〜一〜定〜後〜と〜
い〜い〜〜性用を〜と〜る〜

性五稿

